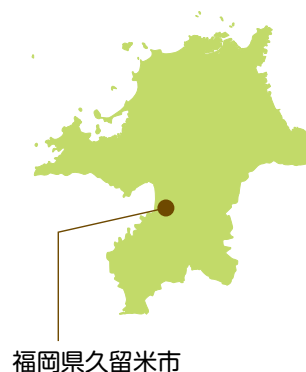


働きやすい職場環境を整備し、ラディッシュの生産・加工をパワーアップ

# 株式会社カラーリングファーム

※2018年3月現在

代表者名	榎原 憲一	資本金	3百万円
設立年	2011年4月26日	売上高	126百万円(2017年3月期)
事業内容	生産(ラディッシュ、ミズナ、 ハウレンソウ)、消費者直売、 加工・製造	経営規模	田3.5ha、畑0.8ha、生産施設 19,800㎡、加工施設56㎡(ラ ディッシュ酢漬)
従事者数	16人(うち女性10人。女性内訳:役員1人、常勤パート9人)		
女性活躍 支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の 業務改善		



## 経営概況

福岡県久留米市の株式会社カラーリングファームは、1983年、現代表の母親である榎原美智子氏が創業した。当時としては目新しく、希少性の高かったラディッシュに着目し、生産を開始。周年栽培の生産技術を確立して、生産の安定を実現した。

美智子氏は1986年に「JAみい」ラディッシュ部会の初代部会長に就任。同時期には関東エリアへの販路拡大をめざして営業活動を行い、出荷を開始した。現在、JAみいのラディッシュ生産量は全国シェアの20～30%にのぼり、そのう

ちの約半分をカラーリングファームが占めている。

現在の経営規模は田3.5ha、畑0.8haで、このうちハウスが2.3ha。主要品目のラディッシュが売上高割合で63%を占めるほか、ミズナ(同20%)、ラディッシュの連作障害を避けるために栽培しているハウレンソウ(同11%)などが主な作物である。

ラディッシュは「二十日大根」の別名の通り、夏場は20日程度で収穫でき、同社では年間7～8回の収穫を行っている。高回転で収穫できる、付加価値の高いラディッシュが同社の経営の基盤となっている。

## 1. 経営者の理念・意識改革

現代表の榎原憲一氏は、大学を卒業後、オランダで有機農業や温室栽培を学び、2004年に就農した。ほどなく美智子氏から経営移譲を受け、従業員の福利厚生を充実させたいとの思いから、2011年に同法人を設立。社会保険や給与体系、休日制度など、女性が働きやすい環境を整備した。

パートタイマーの作業時間は、それまでフルタ



イムだったものを、8時～15時へと短縮した。また、従業員が前日までに就業時間を申請するシステムを構築することで、各自の都合に合わせて就業時間を調整できるよう見直しを図った。

そのほか、従業員の状況に応じて、フレックスタイム制の導入や、自宅で調製作業ができる作業委託制度を取り入れ、従業員の多様な働き方を可能にしている。柔軟な就労が可能になったことで、近隣からの女性従業員の確保が容易となった。

## 2. 女性が主体となった商品開発

美智子氏は販路拡大のため、女性の視点からラディッシュの商品名を「さくらんぼ大根」と命名。またパッケージも女性を意識したデザインを採用して、女性を中心とした消費者の購買意欲を喚起することに成功した。

6次産業化に向けては、美智子氏と女性従業員でチームを立ち上げ、約1年間をかけてラディッシュを使用した加工品の商品開発を実施。その結果、2011年に「さくらんぼ大根のやさしい酢漬」を発売した。

この商品は「福岡県6次化商品コンクール」で知事賞を、「JAグループ6次産業化商品コンクール」で優秀賞を受賞している。現在も女性パートが中心になり、同商品の味付けや官能検査を行っている。女性が活躍する機会が豊富な職場である。

## 3. 女性従業員の自主的な作業改善

女性従業員は週1回、社内の会議室で全員参加のミーティングを実施している。栽培状況や作業環境改善について話し合い、自主的に作業の効率化を図っている。従業員から女性目線での作業改善、栽培管理の提案がなされ、これを採用することで生産量が増加するなどの効果があった。

調製作業で最も作業量が多いのがパック詰め

工程だが、これについても女性従業員の提案によって作業を効率化した。現在はパック詰めを機械化を導入することで、さらに生産性がアップしている。

このミーティングを受けて作成されたのが、写真付きの“作業マニュアル”。これにより誰でも作業が可能になり、特に外国人実習生の交代もスムーズにできるようになった。

また、女性従業員が当番で日報や出荷数などを記録することで日々の成果の「見える化」を実施。日々の反省点、連絡事項をホワイトボードに記すことで、情報の共有化と従業員の意識改善を図っている。

## 4. 従業員に開かれた経営スタイル

従業員全員に「経営理念」「行動理念」「ビジョン」「アクションプラン」「今期の目標」の経営指針書を配布しており、アクションプランなどは女性従業員と話し合いながらその年の内容を決定する。決算書も全員に公開するなど、従業員に開かれた経営スタイルを採用している点も大きな特徴である。

### 審査委員の声

強いリーダーシップと抜群の行動力で事業を拡大してきた女性創業者。今は、農業者の地位、女性の地位を高めたいという強い信念を持つ。その思いを尊重しつつ、更なる発展を志す後継者。二人三脚の経営という印象を持った。ラディッシュのように小さく軽く、細かい作業を要する農産物は、出荷だけでなく現場作業においても女性が活躍するのに向いている作目である。後継者である現社長が、さらに多くの女性従業員の力を活かしながら経営する将来が楽しみだ。